

特別例会「同族経営を考える」

3月12日 於 QUESTION 7F

協和精工株式会社 山下 正起

3/12(火)に今期最後の例会になります特別例会「同族経営を考える」を開催しました。

本事業は、機青連 42 期のテーマ「一意専心～未来を見据えて一隅を照らし続ける～」の思いの集大成として、同族企業の未来とはどのようなものなのか？同族企業の過去、現在、未来のそれぞれについて、様々な話題をテーマに深い部分まで切り込んでいく事で、参加された方々の企業で、輝く未来を切り開くための具体的な取り組みにつなげていくことを目的としています。

会場は、賛助会員としても日頃より大変お世話になっております、京都信用金庫様の施設である QUESTION を使わせていただき、対面と zoom のハイブリッド形式にて行いました。

ゲストとして、綿善旅館の小野雅世様、株式会社シオノ鑄工の塩野浩士様のお二方をお招きしました。前半ではお二方にそれぞれお話をいただき、後半ではパネルディスカッションを行いました。

お二方とも事業承継を済まされている中で、入社される前の部分から入社してから現在までの中で、良いことも大変だったことも含めて様々なご経験や思いを赤裸々に語っていただきました。同族経営では避けて通れない親子間でのめめごとや相続の話など、普段は話さないようなことまで語っていただき大変貴重な時間となりました。

後半のパネルディスカッションでは、私がファシリテーターを務めさせていただき、松浦副代表にも登壇していただく形で行いました。

前半でお聞きした内容を中心に、事前に集計した質問事項やテーマを中心にさらに深掘りするような形で行いました。

会場の参加者の皆様にも話を振らせていただく中で、それぞれの考えやご経験をたくさんの方からお聞きすることができました。

今回、同族経営というテーマを設けて例会を行いました。様々なお話をいただく中で、大切なのは「同族」の部分ではなく、「経営」という部分であり、社員さんの幸せをどれだけ考えることができるか、より良い未来を描き、行動することができるかが最も大切で、それこそが経営者の唯一の役割であるということが改めて心に刻むことができた大変有意義な時間となりました。

会員の皆様にとって本例会が輝く未来を切り開いていくための一助になっていれば幸いです。

